

# 七小校長室便り

開校51年目

国立市立国立第七小学校

校長室便りNo.1 令和5年(2023年)4月27日

## 今年度の校長室便りを始めます。



### <1年生を迎える会より>

令和5年度が始まり、国立七小の教育活動も2週間以上が過ぎました。



先週の4月21日の金曜日には、1年生を迎える会を体育館で行い、これまでの2年間において実施できなかった、全校児童が一堂に会する学校行事として行うことができました。校長としても感慨深く、とても嬉しい思いでいっぱいになるとともに、こんなにたくさんの子供たちがいたことにも改めて驚きました。

今日の前にいる子供たちが安心をして学校に通い、安全な日々を過ごしてほしいと願わずにはいられない瞬間でした。

また、会の最後のところで全校で校歌を歌う際には、これまでは、画面越しに校歌の指揮をしてきましたが、今日は、体育館の舞台上で指揮をとりました。子供たちの歌声の響きを聴いて合唱をしてきた者として、やはり歌声はいいものだ実感をしました。

これからも、感染症対策をしながら、子供たちの歌声が響く学校にしていきたいと思えます。

### <保護者会を終えて>

先々週の4月12日(水)から14日(金)までの間で、保護者会を行いました。

保護者会においても、感染症対策に留意しながらではありましたが、学年全体の会を行うことができました。昨年度までは、各学級で実施していたこともあり、全学級を回って保護者会の途中で時間をいただいてきましたが、今年度は、担任と保護者の皆様の大切な時間を大きく割くことがないように、回らせていただきました。

更に、今年度は、新しい先生方を紹介できる保護者会ともなり、4月6日(木)にお知らせしているように個人の判断によるマスク着用の対応となったことで、多くの方と素顔での対面を行うことができました。お陰様で、私や新しい先生方を知っていただく大切な時間としてお話をさせていただくことができました。



また、今年度は、この4月から多くの保護者の方との面談を行う機会も多くあり、よりよい学校運営や学級運営に活かすことができる対話が実現しています。引き続き、それぞれのご家庭や保護者の方と密接に連携し子供たちの健やかな育成を目指した教育活動となるよう努めてまいります。

様々にお気付きのことやご心配なこと、良いことでもそうでないことでも双方向の対話ができる学校でありたいと思えます。遠慮なく、ご相談やご連絡をお願いいたします。

### <登校時の挨拶>

今年度は、年度の初めから校門のところで一言話をし、朝の挨拶をして子供たちとその日の一日をスタートさせています。門のところに行くと、子供たちからあいさつをされたり、話しかけられたりと楽しい時間になっています。時には、学区域を自転車で回って、子供たちの様子を見たり、見守り会の皆さんと会話したりしながら、登校時の安全管理の状況を把握するようにしています。



また、いつも門のところに立てるわけではないので、しばらく立てない時には、私がいなくて心配してくれる子供がいたようで、子供のやさしさに、とても嬉しくなりました。そういう時には、校長としてだけでなく、一教員としての認識を新たにして初心に戻ることができます。

子供のもつ可能性や生命力は、私たち教員にとって、かけがえのない宝物だと思います。いつも元気でいてほしい、楽しい一日であってほしいと願う毎日を送っています。「七小でよかった。」と子供たちが思えるような、そして、保護者の皆様に「七小に通わせてよかった。」と感じていただけるような学校にしていきたいです。

今年度は、6年生が自発的に登校時のあいさつに立っているなど、子供たちの意識の変化も感じられています。全校の子供たちが、自然にあいさつができるように取り組むたいと思えます。学校とご家庭での連携プレーで、子供たちの朝の姿を高めていきたいと思えます。

あいさつにおけるご家庭での取組にご協力をお願いいたします。

## <野外宿泊体験の实地踏査>

今年度、5年生の宿泊行事である野外宿泊体験の担当校長となりました。

今日の4月27日(木)と28日(金)に实地踏査のため八ヶ岳方面の实地踏査に参ります。2日間、学校を留守にいたします。昨年度は、宿泊する八ヶ岳荘に国立市内の2つの小学校が同じ日に使用していましたが、今年度から単独で使用する事になり、更に充実した活動が可能となりました。5年生の担当教員である5年1組の担任も参ります。留守の間、何卒、よろしくお願いいたします。



## <全校朝会から>

今週の4月24日(月)の全校朝会から1年生も加わり、全校の子供たちが体育館に集合した形での朝会を行いました。これまでは、校庭であれば全校で行うことができましたので、昨年度も何度か行いましたが、今年度は、体育館でも実施することが可能となりました。

全校朝会では、整列する様子や話を聞く態度や姿勢、それぞれの学年の状況等を多くの教職員で見ながら、学校全体における児童の成長や課題を知るようにもしています。これからも感染症対策に十分に留意をしながらではありますが、体育館での取組を実施してまいります。

また、この日は、七小地域見守り会の皆様にご来校いただき、全校の子供たちの前で、ご紹介をさせていただきました。この取組もしばらく実施できていなかったものですが、状況や内容を考えながら実施することができました。27名もの方々にご来校いただきました。これからも、本校の児童の安全と安心のために、ご協力とご尽力をお願いいたします。ありがとうございました。

## 【校長のつぶやき】

新しい先生方を迎えて、新年度が始まりましたが、気が付けば今週末で四月が終わります。この四月においては、学校だけではありませんが、人が入れ替わることによって、これまでの雰囲気やそれぞれの教職員の立ち位置が変わることもしばしばです。本校においては、副校長をはじめとして、養護教諭や少人数担当、はばたきやきこえとことばの教室の担当、職員にも新しい方々を迎え、また、それぞれの役割において、これまでと変わった方もいて、新しい七小が動き始めています。

校長の立場としては、これまでの先生方や新しく来られた先生方が楽しく有意義で充実した職場となるよう努めているつもりではありますが、まだまだ、これからというところで、保護者や地域の皆様にごできるだけ早く安心していただけるように学校運営を高めているところです。

さて、私が合唱指導や指揮者として、長年、合唱に携わってきたことは、これまで何度となく、お伝えしてきていますが、実は、指揮者を長年やってきたことにより、人と人との関わりに大きく役立っているところがあります。音楽のプロではありませんので、これからの内容においては、あくまで私の経験からの考えとなりますが、ご了承ください。

指揮者は楽譜を基に演奏を創り上げていく訳ですが、楽譜に表現されている作曲者の意図や作曲におけるこだわり、作曲技法等を学んだ上で指揮をします。特に、合唱においては、歌詞としての言葉があり、音と言葉のつながりもあって、更に合唱ならではの学びが必要となります。ソプラノ、アルト、テノール、ベースの四声をどのように重ね合わせていくか、一つ一つの言葉に応じた表現を各パートがどこまでも自然に歌うことができるか等、指揮者の力量が問われるところであり、常に学びの連続でした。



また、各パート内の声もみんな違う発声をしている中で、同じ声というよりも響きを創っていくことを大切に、練習を重ねていきます。各パートの一人一人の思いが違い、声も違う。同じ言葉を表現することにおいても、みんな感じ方が違うわけですから、なかなか全く同じ表現にすることも難しいところです。指揮者の思いを形にするだけであれば、きっとそんなに難しいことではないのかもしれませんが、演奏する一人一人をどこまでも大切に、その思いをしっかりと受け止め、聴きながら思いが一つとなる演奏にしていく。演奏者が主役の演奏としていくことが本来の指揮者の役割の1つのようにも感じています。

学校経営や運営においても同じで、教職員のそれぞれの皆さんがもつ力を最大限に発揮するように関わっていくには、合唱を作り上げていくのと同じように、教職員の一人一人をよく知り、言葉をよく聴き、お互いを認め合う場であることが重要です。これは、学級経営でもいえることだと、担任時代にも大切にしてきたことです。

国立第七小は、先生方がとても努めている学校だと思います。まだまだ、足りないところもあると思いますが、よりよい学校を目指して、学校経営・運営という楽曲を演奏していきたいと思っております。

校長室便りを今年度も  
よろしくお願いいたします。